



第3回全国特別支援学校フットサル大会 記念誌

公益財団法人日本ライオンズ主催

第3回全国特別支援学校 フットサル大会



公益財団法人 日本ライオンズ
〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目2-4 八重洲ノリオビル5階
TEL.03-6262-6108

Contents

1	公益財団法人日本ライオンズ 役員
2	公益財団法人日本ライオンズの大会基本コンセプト
3	ごあいさつ
4	祝辞
7	開催要項
8	運営組織
9	全国大会熱戦譜 プロローグ 成績 優勝 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園 準優勝 北海道札幌あいの里高等支援学校 3位 奈良県立ろう学校 4位 兵庫県立高等特別支援学校 5位 富山県立富山高等支援学校 6位 東京都立永福学園 7位 大分県立さくらの杜高等支援学校 8位 愛知県立名古屋聾学校 9位 香川県立香川東部支援学校 10位 長崎県立希望が丘高等特別支援学校 11位 鳥根県立松江養護学校 12位 宮城県立支援学校岩沼高等学園
36	開会式、閉会式
40	大会講評
41	地区大会参加校一覧
42	地区大会記録
50	次回大会開催の告知、会場、連絡先一覧
52	第3回全国特別支援学校フットサル大会を終えて

公益財団法人日本ライオンズ 役員

理 事	小野寺 眞 悟 (理事長)	評 議 員	小 川 晶 子
	山 川 洋 (副理事長)		北 畑 英 樹
	不 老 安 正 (相談役)		吉 村 千鶴子
	片 山 雅 裕		廣 田 晃 一
	渡 邊 俊 弥	監 事	橋 本 勝 策
	大 山 恭 範		久保田 信 也
	池 原 堅		伊 賀 保 夫
	池 上 信	事務局長	増 澤 義 治
	松 浦 淳 一		

RESPECT

公益財団法人日本ライオンズの大会基本コンセプト 自立とRESPECT

〇自立への願い

公益財団法人日本ライオンズは、特別支援学校の多くの生徒が、卒業後、実社会に出て就労することを踏まえて、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるように、生徒の主体的判断を尊重する大会を目指しています。

このため本大会は、通常のフットサル競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を禁止していません。監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、状況を見守り、生徒の自立的行動を正確に把握して、穏やかな態度で、生徒が主体的な判断・決定・実行する力を高めるよう、温かな思いやりのある行動を期待しています。

〇RESPECTへの願い

生徒は、卒業後、実社会に出た場合、RESPECT「他人への思いやり」があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判へのRESPECT行動を具体的に示す大会を目指します。

このため会場では、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒と先生、審判、大会関係者などにはRESPECTを表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの具体的な礼儀や言葉遣いを行うことを期待しています。

区分	開催地	日程	会場
第1回	札幌	2022年11月4日 開会式 11月5日 競技会、表彰式、閉会式	北ガスアリーナ
第2回	福岡	2023年11月3日 開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	アクション福岡
第3回	名古屋	2024年11月1日 開会式 11月2日 競技会、表彰式、閉会式	中村スポーツセンター
第4回	東京	2025年10月31日 開会式 11月1日 競技会、表彰式、閉会式	東洋大学赤羽台キャンパス 体育館予定
第5回	大阪	2026令和8年11月6日 開会式 11月7日 競技会、表彰式、閉会式	堺市立大浜体育館 予定
第6回	岡山	2027令和9年11月5日 開会式 11月6日 競技会、表彰式、閉会式	環太平洋大学体育館 予定
第7回	金沢	2028令和10年11月3日 開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	未定
第8回	仙台	2029令和11年11月2日 開会式 11月3日 競技会、表彰式、閉会式	未定

ごあいさつ



公益財団法人日本ライオンズ
理事長 小野寺眞悟

この度、「第3回全国特別支援学校フットサル大会」が関係各位のご協力のもと、名古屋市において盛会裏に終えることができましたこと、主催者として、心より深く御礼申し上げます。

この大会は、特別支援学校の生徒の多くが、後期中等教育の場である高等部校を終了した後に、各地域の中で円滑に生活ができることを願って、彼らの心と体を強くしてもらえらばとの願いで創設した大会です。

したがいまして、一般的なフットサル競技では許されている教師のサイドコーチの一切を禁じ、生徒の思いを生かして主体的能動的に、生徒だけで考えあい工夫しあい、互いの手を取り合って臨む大会としています。

特別支援学校の生徒の皆さんの願いにより、大会に参加する学校も増えてきて、第1回大会は70校、第2回大会は111校、第3回大会は122校が参加して、全国12地区の予選で優勝した12校が今年の名古屋大会に集結して、正々堂々、全国の覇を競い合うことができました。

私たちはこの大会を通して、全国の特別支援学校で学ぶ生徒の心身の健康、人とつながる社会性、また何よりも、これからの日々の生活をより豊かなものにしていこうとする意欲を育てる一助になればと祈念しております。

最後になりましたが、ここに「第3回全国特別支援学校フットサル大会」記念誌をスポーツ庁及び全国特別支援学校長会をはじめとした関係各位のご尽力により発刊することができましたことを深くお礼申し上げます。

また、私たちは、我が国の青少年に「夢と希望」を合言葉として、特別支援学校の生徒の全国特別支援学校フットサル大会の開催事業、児童養護施設の小学生への学習支援を行う寺子屋事業、地震及び台風等の災害時の子供達を中心とした緊急対策支援を行っておりますので、当法人へのご指導ご鞭撻を何卒よろしくごお願い申し上げます。

祝 辞



スポーツ庁長官
室伏 広治

この度、第3回全国特別支援学校フットサル大会が、愛知県名古屋市において、盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

本大会を通して、全国から集まった特別支援学校の生徒が、ともに同じスポーツをする仲間との絆を深め、交友の輪が広がる貴重な機会となったことを大変嬉しく思います。改めまして、本大会の開催に御尽力いただいた公益財団法人日本ライオンの皆様に、心より敬意を表します。

特別支援学校における児童生徒のスポーツ環境の充実を図っていくことは極めて重要であり、本大会は、これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮する機会として、大変意義深い取組であります。

昨年開催されたパリ2024パラリンピック競技大会により、パラスポーツに大きな注目が集まっているところです。さらに、本年には東京2025デフリンピック、翌年には愛知県名古屋2026アジアパラ競技大会の開催を控えています。このような中、今後とも本大会を契機として、特別支援学校の生徒児童のスポーツ活動機会が充実するとともに、スポーツを通じて、誰もが住みやすい社会の実現に向けた取組が着実に進んでいくことを強く願っています。

結びに、貴団体の益々の御発展と関係者の皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



ライオンズクラブ国際財団理事長
Dr.パティ・ヒル

皆様

ライオンズクラブ国際財団 (LCIF) を代表し、第3回フットサル全国大会が多くの皆様の協力と支援により大成功に終わりましたことを、心からお祝い申し上げます。参加した選手の皆様、チームの指導者や先生方、そして応援されたご家族の皆様には、長く心に残る、素晴らしい思い出になったことと思います。

ライオンズが地域コミュニティで行う、必要とされている奉仕に力を与えることが私たちLCIFの使命です。私たちの提供する交付金はすべて、皆様のように寄付という形での奉仕活動に取り組むライオンズ会員や、その活動に賛同してくださるお一人お一人からの気持ちからいただく資金によって賄われております。1968年の創設以来、LCIFは皆様のご理解を深く広くする努力を続け、少しずつ支援の規模と範囲を広げてきました。その道のりで、共通の目標や目指す社会が一致する組織や企業とパートナーとなったことが、私たちの財団を一層強くすることになりました。

LCIFは、公益財団法人日本ライオンズと正式なパートナーとなり、私たちの交付金を活用したライオンズ会員がこの特別なイベントの成功に貢献したことを、心から誇りに思います。そしてこれからも、より多くの学校と生徒たちがフットサルというスポーツに真剣に取り組むこの素晴らしい大会に参加する機会が生まれることを願っております。

この大会の成功のために協力し、汗を流された多くのライオンズとレオ、そして関係者の皆様に敬意を表しますとともに、公益財団法人日本ライオンズのますますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

奉仕の心で

祝 辞



愛知県知事
大村 秀章

第3回全国特別支援学校フットサル大会全国大会が愛知県において、盛大に開催されましたことを心より喜び申し上げます。

本大会は、『自立とRESPECT』を基本コンセプトに、特別支援学校の生徒の主体的判断を尊重し、他人を思いやる心の育成など生徒達の成長に大いに貢献していただいております。今回も多く参加者を得て開催されました。選手の皆様におかれましては、フットサルを通じて全国から参加された選手との交流を深めていただいたかと思えます。改めまして、本大会の開催にご尽力いただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様に深く敬意を表します。

愛知県では、スポーツ振興に関する中長期的な展望と、総合的な施策を示す新たな計画として、「愛知県スポーツ推進計画2023-2027～スポーツがつなぐ愛知の未来～」を2023年3月に策定いたしました。この計画の取組期間においては、2025年7月のIGアリーナの開業や2026年のアジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催などの大規模プロジェクトが控えており、このインパクトを最大限に活かし、競技力の向上や障害者スポーツの振興はもとより、スポーツを通じた共生社会の実現や地域活性化といった様々な成果を生み出し、日本を盛り上げていきたいと考えております。

全国特別支援学校フットサル大会が今後も継続的に開催され、フットサルを通じて共生社会の実現に向けた取組がさらに広がっていくことを期待します。

結びに、本大会に参加された選手並びに関係者の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



全国特別支援学校長会
会長 **三浦 昭広**

この度、第3回全国特別支援学校フットサル大会が、愛知県名古屋市において盛大に開催されましたことを、心よりお祝い申し上げます。

全国から参加した特別支援学校122校の生徒が熱戦を繰り広げるとともに、交流を深めたことを嬉しく思っています。

特に、本大会の基本的な約束として示されている「仲間、先生、相手、審判等にリスペクトrespectを示す場とします」をよく守り、仲間、先生、対戦相手、審判、大会関係者の方々に感謝の気持ちをもってプレーできたことは素晴らしいです。

参加生徒の皆さんには、本大会で得た貴重な経験を、今後の生活に活かしてほしいと願っています。

来年度は、東京都で大会を開催し、150校の参加を目指し準備しているとのこと。全国の特別支援学校に在籍する児童生徒の励みや大きな目標となるフットサル大会を開催いただいております公益財団法人日本ライオンズの皆様に敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。貴財団と本大会のますますの御発展を祈念しております。

開 催 要 項

- 1 主 催 公益財団法人 日本ライオンズ
- 2 主 管 第3回全国特別支援学校フットサル大会 実行委員会
- 3 後 援 スポーツ庁、愛知県、名古屋市、全国特別支援学校長会、中日新聞社
- 4 運営協力 ライオンズクラブ国際協会334-A地区、公益財団法人愛知県サッカー協会
- 5 全国大会

- (1)開催期日 2024年11月2日（土） 午前9時
- (2)会 場 競技会場：名古屋市中村スポーツセンター
宿 泊：名鉄グランドホテル
式 典：開会式 名鉄グランドホテル
閉会式 名古屋マリオットアソシアホテル
- (3)日 程 2024年11月1日（金） 午後3時～ 抽選会・開会式
2024年11月2日（土） 午前9時 競技会
午後6時 表彰式・閉会式
- (4)宿 泊 名鉄グランドホテル
住所：名古屋市中村区名駅1丁目2-4
大会参加者及び大会関係者

6 地区大会

- (1)日 程 2024年7月～9月までの間で、全国12地区において地区大会を開催すること。
- (2)開催組織 各地区大会は、次の組織等が担当すること。

地区大会	ライオンズクラブ担当	地区大会の担当組織	主管担当
北海道地区	331 片山 雅裕	公益財団法人明日佳	鈴木 重男
東北地区	332 渡邊 俊弥	一般社団法人東北サッカー協会	天本 清隆
		東北福祉大学	大西 孝志
東関東地区	333 山川 洋	関東知的障がい者サッカー連盟	木村 純一
西関東地区	330 伊賀 保夫		
北信越地区	334 大山 恭範	一般社団法人北信越サッカー協会	谷内 浩仁
東海地区	334 大山 恭範	東海地区大会実行委員会	野村 政司 高橋 敬
東関西地区	335 廣田 晃一	関西知的障がい者サッカー連盟	芥川 豊和
西関西地区			
中国地区	336 池原 堅	環太平洋大学サッカー部	桂 秀樹
四国地区			
北九州地区	337 池上 信	一般社団法人沖縄県障がい者サッカー連盟	金城 充
南九州地区		大分県立大分支援学校	清末 直樹

7 出場資格

- (1)教育課程 特別支援学校学習指導要領に基づく教育課程で学ぶ特別支援学校等であること。
- (2)チ ャーム 単独校生徒で編成されたチームであること。
- (3)校長承認 各校は校長の承認の下で、1チームを参加すること。
- (4)編 成 1チームの上限は、生徒8名、引率者3名、合計11名で編成すること。
- (5)補 助 各地区大会出場校は、地区大会予算の範囲内で助成を受けることができる。
- (6)地区大会 各地区大会は、各地区の状況を踏まえた大会要領の下で開催すること。
- (7)全国大会 地区大会の優勝校は、主催者が経費負担する全国大会に出場すること。

8 競技方法

- 国際サッカー連盟制定のフットサル競技規則を適用するものとする。
競技規則の詳細は、全国大会要項及び地区大会要項による。

9 その他

- 生徒の卒業後の就労・生活等に役立つよう、生徒の主体性を重んじること。

運営組織

大会会長	小野寺真悟	公益財団法人	日本ライオンズ	理事長
大会副会長	山川 洋	公益財団法人	日本ライオンズ	副理事長
実行委員長	大山 恭範	公益財団法人	日本ライオンズ	理事
実行副委員長	野村 政司	ライオンズクラブ国際協会334-A	一宮ライオンズクラブ	
実行事務局長	高橋 敬	ライオンズクラブ国際協会334-A	一宮ライオンズクラブ	
実行副事務局長	坂野 友昭	ライオンズクラブ国際協会334-A	東海ライオンズクラブ	
実行副事務局長	北川 隆宏	ライオンズクラブ国際協会334-A	名古屋東山ライオンズクラブ	

プログラム部会 大会プログラムの製作

実行委員	竹内良太郎	334-A	名古屋MJFライオンズクラブ
実行副委員	鈴木 勲	334-A	名古屋MJFライオンズクラブ
実行副委員	近藤 和顕	334-A	名古屋MJFライオンズクラブ

救護部会 期間中の救護体制、感染症対策全般 等

実行委員	日向 雅樹	334-A	豊橋みなとライオンズクラブ
実行副委員	大本 浩竜	334-A	豊橋西ライオンズクラブ
実行副委員	小林 立治	334-A	豊橋みなとライオンズクラブ

移動部会 参加校及び関係者の交通手段、移動に関する手配、会場間の誘導 等

実行委員	久保 辰也	334-A	一宮ライオンズクラブ
実行副委員	御子柴孝明	334-A	一宮ライオンズクラブ
実行副委員	山田 将光	334-A	一宮ライオンズクラブ

進行部会 開会式、閉会式、食事も、交流会進行、競技進行、アナウンス原稿 等

実行委員	杉浦 義和	334-A	豊田ルネッサンスライオンズクラブ
実行副委員	山岸 慎	334-A	豊田ルネッサンスライオンズクラブ
実行副委員	鈴木 崇義	334-A	豊田ルネッサンスライオンズクラブ

競技審判部会 抽選会、組み合わせ、会場整備、競技ルール策定及び運営、審判業務 等

実行委員	伊藤 美穂	334-A	武豊ライオンズクラブ
実行副委員	伊藤 幹久	334-A	武豊ライオンズクラブ
実行副委員	榎原美津子	334-A	武豊ライオンズクラブ

総務部会 競技場受付、弁当や記念品、会場警備 等

実行委員	大藪 伸康	334-A	丹羽ライオンズクラブ
実行副委員	田中 秀樹	334-A	江南ライオンズクラブ
実行副委員	齋木 隆	334-A	丹羽ライオンズクラブ

宿泊部会 参加校及び関係者の宿泊手配及びサポート 等

実行委員	乙瀬 英治	334-A	名古屋みなとライオンズクラブ
実行副委員	伊藤 幹郎	334-A	名古屋みなとライオンズクラブ
実行副委員	矢田 誠	334-A	名古屋みなとライオンズクラブ

ボランティア部会 大会運営補助、ハーフタイムショー 等

実行委員	岡田 裕明	334-A	西尾ライオンズクラブ
実行副委員	高須 政義	334-A	西尾ライオンズクラブ
実行副委員	中村 禎吾	334-A	西尾ライオンズクラブ



全国大会
熱戦譜

宇都宮青葉高等学園が2連覇!



栄えある第3回大会は2024年(令和6年)11月2日、愛知県名古屋市中村スポーツセンターで開催された。大会を重ねるにつれ「ライオンズのフットサル」として全国の特別支援学校サッカー部やフットサル部の生徒達に浸透しつつあり、彼らにとっては本大会が野球という「甲子園」のような存在となってきた。

全国12地区を勝ち抜いた代表校のレベルは過去最高となり、多くの試合が接戦となったが、激戦を勝ち抜いたのは前回大会を制した栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園(以下、宇都宮)だった。予選リーグや順位決定リーグを通じて5戦全勝で偉業を成し遂げた。昨年以上に磨き上げられた、攻守の切り替えの速さ、フィジカルの強さ、最後まで走りきる気持ちの強さが、わずかに他チームを上回った印象だ。そして、昨年度も活躍した大久保史弥選手がさらに覚醒

し、圧倒的得点力を見せた個の力も大きかった。事実上の決勝戦となった順位決定リーグ2戦目の北海道札幌あいの里高等支援学校(以下、あいの里)戦は4-2で勝利したが全ゴールを大久保選手が決めるなど無双状態だった。知的障がい者フットサル日本代表に選ばれた逸材がこの大会で見いだされたことも嬉しい限りだ。

初出場のあいの里が2位の健闘も印象的だった。ボールを止める、蹴るという基本やテクニック、パス回しは今大会では最も優れていたように思う。3位の奈良県立ろう学校(以下、ろう)の結束力も素晴らしかった。開閉会式を含め歓喜と感動と涙を誘った各チームの戦いぶりを次々ページから写真や各校主将、指導者のコメントで振り返る。

第3回全国フットサル大会 試合結果

予選リーグ

Aブロック							Bブロック							Cブロック							
順位	勝	負	勝点	得失点差	得点	失点	順位	勝	負	勝点	得失点差	得点	失点	順位	勝	負	勝点	得失点差	得点	失点	順位
1	3	0	9	10-2	10	2	1	3	0	9	10-2	10	2	1	3	0	9	10-2	10	2	1
2	2	1	6	7-4	7	4	2	1	2	4	3-1	3	1	2	1	1	2	2-1	2	1	2
3	1	2	3	4-5	4	5	3	0	3	0	0-3	0	3	3	0	3	0	0-3	0	3	3
4	0	3	0	2-8	2	8	4	0	0	0	-8	0	8	4	0	0	0	0-3	0	3	4

決勝リーグ

決勝リーグ (各ブロック1位)	ア 北海道	イ 奈良	ウ 栃木	勝ち点	得失点差	順位
北海道札幌あいの里高等支援学校		7-2	2-4	3	3	2
奈良県立ろう学校	2-7		1-3	0	-7	3
栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園	4-2	3-1		6	4	1

決勝リーグ (各ブロック2位)	カ 兵庫	キ 東京	ク 富山	勝ち点	得失点差	順位
兵庫県立高等特別支援学校		2-0	6-1	6	7	4
東京都立永福学園	0-2		1-3	0	-4	6
富山県立富山高等支援学校	1-6	3-1		3	-3	5

決勝リーグ (各ブロック3位)	サ 愛知	シ 香川	ス 大分	勝ち点	得失点差	順位
愛知県立名古屋聾学校		8-0	1-2	3	7	8
香川県立香川東部支援学校	0-8		0-3	0	-11	9
大分県立さくらの杜高等支援学校	2-1	3-0		6	4	7

決勝リーグ (各ブロック4位)	タ 長崎	チ 宮城	ツ 島根	勝ち点	得失点差	順位
長崎県立希望が丘高等特別支援学校		1-0	3-1	6	3	10
宮城県立支援学校岩沼高等学園	0-1		0-3	0	-4	12
島根県立松江養護学校	1-3	3-0		3	1	11

最終順位

- 1位 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園
- 2位 北海道札幌あいの里高等支援学校
- 3位 奈良県立ろう学校
- 4位 兵庫県立高等特別支援学校
- 5位 富山県立富山高等支援学校
- 6位 東京都立永福学園
- 7位 大分県立さくらの杜高等支援学校
- 8位 愛知県立名古屋聾学校
- 9位 香川県立香川東部支援学校
- 10位 長崎県立希望が丘高等特別支援学校
- 11位 島根県立松江養護学校
- 12位 宮城県立岩沼高等学園



栃木県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園

〒320-8506 栃木県宇都宮市京町9-32
全校生徒／233人 部員／21人

柳田嘉紀監督

「生徒は本当に一生懸命に練習してきたので、連覇できてホッとしています。第2回大会で優勝した時の1年生を初め、よく成長してくれました。今大会で数多くの得点を決めてくれた大久保史弥選手は知的障がい者フットサルの日本代表にも選出されて自信をつけ、大会でもプレーで仲間を引っ張る姿が見られました。生徒達は素直に練習に取り組み、切り替えを大事にしてメリハリをつけた練習の成果を試合で発揮し、あきらめず、泥くさく走りきるプレーができたと思います。今大会はさらにレベルが上がり、試合前の他チームの練習を見て、優勝は難しいと思いましたが、その心配をよそに生徒達

が自信を持って2連覇したいという気持ちを出して、先制される試合もある中、昨年以上の粘り強さを見せて戦ってくれました。本当にサッカーやフットサルが大好きな生徒達で、勝ちたいという気持ちが強いので、スタッフはそのための環境を整えてあげることを重視してきました。この大会があることで、学校生活でも自分の事以外にも周囲のためにできることを探そうという自覚が出てきて、社会人として必要なことを学んで少しずつ成長していると思います。主将の増淵君も立派なキャプテンになりチームをまとめてくれました」



増淵翔太主将

「第2回大会で優勝した時の3年生の存在が大きくて、その穴を埋めようという気持ちが高まったからこそ、ここまで戦えたと思います。優勝できたのは、今大会に出られなかったメンバーが頑張ってくれたからこそ、個人やチームのレベルアップにつながりました。2連覇というプレッシャーもありましたし、自分はあまり大きな声を出さなくてチームをうまく引っ張れたかはわかりませんが、仲間はよくついてきてくれました。チームの特徴である切

り替えの速さは練習で意識していないと、試合では緊張して出せなくなるので、普段の練習で、すぐに守備してすぐに攻撃に結びつけることを繰り返してきたので、試合で出せたと感じています。今大会もレベルがさらに上がって危ない場面も多かったですが、チームを信じてプレーしたことが結果につながりました。日本ライオンズ様がこの大会を開いてくれて、プレーできたことは感謝の言葉しかありません。ありがとうございます」



重圧はねのけ貫禄の全勝V





北海道札幌あいの里高等支援学校

〒002-8074 北海道札幌市北区あいの里4条7丁目1-1
全校生徒／193人 部員／24人

笹本大輔監督

「優勝した宇都宮さんに2-4で敗れ2位でしたが、気持ちの強さと、フィジカル面のタフさで差が出たと思います。ですが技術の面では十分に全国で通用したと思います。初出場で準優勝は選手がよく頑張ってくれた結果です。ただ、うれしいだけではなく、星野主将もずっと涙を流していましたし、本当に悔しいと思っている選手がほとんどなので、全然満足していないようです。フットサルの戦術は私自身も勉強しましたが、エスポラーダ北海道(Fリーグ2部)の関係者の方に何度か指導を

受け、大会前の10月にはエスポラーダU-15と練習試合を行わせていただき、動きなど落とし込むことができ、今大会にもつなげられたと思います。それでも準備期間は少なかったですが、練習でも生徒達が話し合っ



星野颯汰主将

「初出場で個人的には留年してでも毎回出たいと感じるすごい雰囲気の中で、このような場を提供して下さった日本ライオンズ様に感謝したいです。2位というのは素晴らしい結果を出せたと思います。決勝リーグで宇都宮さんに敗れ優勝は逃しました。相手の得点源の大久保史弥選手を止められなかったですし、フィジカル面や切り替えの速さという面は僕たちがまだまだ足りない面で、結果には納得しています。負けたという事実が

大きくて悔しいですが、選手は部活がある日は懸命に練習し、ない日も体のケアを怠らなかったので本番で良い試合をできたと感じています。ボールをつなぐことを心がけ試合をして、技術的には北海道は負けていないと思いました。エスポラーダさんと練習試合をしていただき、マークのずれの修正や、キックインなどサッカーと違うルールもあるので、そこで勉強したことも生かしました」



技術の高さ見せ旋風起こす





奈良県立ろう学校

〒639-1122 奈良県大和郡山市丹後庄町456
全校生徒／89人 部員／9人

隆宝敏明監督

「常に上位入賞している関西地区の代表ということで、初めての全国大会出場でも結果を求められているプレッシャーの中、生徒達が自分たちのプレーを貫いてくれて3位入賞につながりました。優勝決定リーグでは大差の敗北もありましたが、全国制覇を目指してリスクを犯して攻めた結果で、中村主将を中心にまとまって力を出し切ってくれました。このチームはまだまだ成長できますし、来季以降も期待しています。やはり全国大会はレベルが高く、その中でも試合運びで苦勞しましたが、

それも想定して練習してきたので、試合で乗り越えてくれた選手達に感謝したいです。本校サッカー部は創部4年目になります。日本ライオンズ様が大会を開いてくださり、活躍や交流の場となり、この大会を目標に学校生活から自覚が出てきたことは事実ですし、時間にルーズな子もいたのですが、少しずつ変化しています。他チームを見てもピッチ内外で良い立ち振る舞いをされていて、良い指導を行っていると感じましたが、その面は本校の生徒も負けていなかったと思います」



中村充輝主将

「優勝しか目指していなかったのが3位は正直、悔しい結果だと感じています。優勝の宇都宮さん、2位のあいの里さんは強かったですが、もう1回戦ったら勝てるという自信はあります。今大会のために、どこの学校より練習してきた自信はあります。7時半から朝練習を行っていましたが、放課後も合わせて週に11回は練習していました。試合を振り返ると特に平井淳暉君が試合の中でも成長してくれて、練習とはまったく違う姿を見せてくれました。自分としては主将としてチームを優勝に導け

なかったことを悔しく感じています。本当にチームがひとつになって全員で戦えました。熱い気持ちを持ったチームでした。この大会を目標に、自分は主将として責任感やリーダーシップができました。チームも目標に向かって集中して取り組みましたし、生活面も規律を守るようになりました。このような大きな大会に出ることは経験がなく、食事からホテルから全てが豪華で、ありがたかったです」



“日本一”の練習量を自信に躍進





兵庫県立高等特別支援学校

〒669-1515 兵庫県三田市大原梅の木1546-6
全校生徒／119人 部員／20人

宮崎龍矢コーチ

「西関西地区を良い形で勝てたので、日本一を目指して練習してきましたが、力及ばず届かなかったというのが正直な気持ちです。練習では神戸国際高校のフットサル部さんと交流させてもらい、デウソン神戸（Fリーグ2部）の関係者の方にも大会前の1カ月間、戦術などを教えていただき、協力に感謝の思いしかありません。戦術に関しては自信を持っていましたが、全国では他チームもしっかりしていました。予選リーグは選手に硬さがあり、2位のあいの里さんに予選リーグで1-2と敗れましたが、ボールを止めて蹴るという基本的なことがすごくできていて、そこは大きな差を感じました。ただ、今回

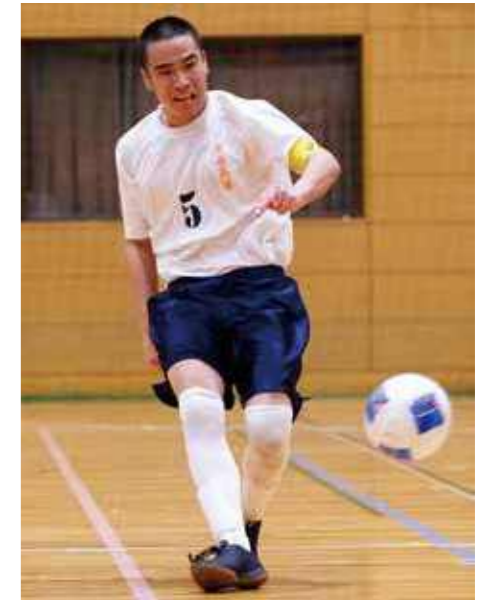
のメンバー8人中5人が1、2年生なので伸びしろは大きいですし、この経験を生かし来季を目指します。日本ライオンズ様がこの大会を開いてくださり、選手にとって大きな目標となっていますし、間違いなく成長しています。大きな大会に出ることで保護者の方や、先生などのご応援していただきますが、ピッチ上だけでなく生活から応援してもらえるチームになることがモットーです。最終的には就業、働く力を持って卒業することが本校の1番の目的ですから、フットサルやサッカーはそのための一助と思っています。大会コンセプトの「リスペクト」精神には強く共感しています」



西田廉主将

「初出場で、みんな緊張や不安がありましたが4位という結果は満足しています。2位のあいの里さんに負けて優勝決定リーグに進めませんでした。ベンチ外の3年生の分まで頑張ろうという気持ちがあって負けたのは本当に悔しくて涙が出ました。でも仲間達の戦いぶりは最高でした。神戸国際高校さんやデウソン神戸さんの協力でフットサルの戦術や動きを詳しく教えて

いただき、全国大会でも通用したので感謝しています。全国はどここのチームも強かったですが、負けた時にも下を向かずに前向きに皆で声を掛け合っていたので大会中も成長できたと思います。声かけやあいさつはこのチームよりも大きくしようと思っていて、試合前のあいさつはそれができていたと思います。後輩には来季も出場し僕たちの分まで全国優勝してほしいです」



緊張、不安はねのけ4位健闘





富山県立富山高等支援学校

〒939-2206 富山県富山市坂本2600
全校生徒/52人 部員/9人

河村拓監督

「今大会は全国優勝を目指して、予選リーグの初戦で連覇した宇都宮さんと対戦し、勝つ気持ちで立ち向かいました。やはり強く1-4で負けましたが、その後の選手達は気持ちを切り替えて、今までにないぐらい良い試合をしてくれたのですごく満足しています。ベストゲームは順位リーグの永福学園さんとの試合です。兵庫さんに完敗した後の最終戦でしたが、5位に入りたいという気持ちで選手達が切り替えてくれました。技術が高いチームを相手に逆転して、最後まで守り切るという内容は、特に3年生は今まで以上の成果を出し、選手

全員が力を出し切ってくれました。2年連続出場ですが、今大会も選手の成長はすごく感じました。3年生は試合が楽しかったと言っていたので、これからもっと楽しくなると思っていますので、卒業後もフットサルを続けて成長し続けてほしいと願っています。ベンチから指示が禁止で「自分は楽しむだけだ」と選手達に言いましたが、試合はもちろん、練習から自分たちで考えて話し合ってくれ、実際に試合も楽しませてくれて、本当に最高のチームです。私やスタッフを含めて絆が深まり、間違いなくONE TEAMとなりました」



松本虎哲主将

「今大会は全国優勝を目指して、2回目の出場で5位という結果は悔しい思いもありますが、選手1人1人がベストを尽くしてくれたので満足感の方が大きいです。このチームは練習するときは集中して、遊ぶ時は遊ぶという、メリハリのつけられるチームでした。予選リーグ初戦で優勝した宇都宮さんと対戦してやはり差は感じ、もう少しオフェンス、ディフェンスともレベルアップが必要

だと感じました。だけど仲間も良いプレーを見せてくれて気持ちは負けていませんでした。この大会があることで目標にして成長できますし、大会運営の方や、保護者や学校の方々など支えてくれた皆さまに感謝したいです。今大会もすごく楽しかったです。仲間全員のおかげでここまで来られたのでありがたいという気持ちです」



最高のONE TEAMに成長





東京都立永福学園

〒168-0064 東京都杉並区永福1-7-28
全校生徒／300人 部員／23人

高野恭平コーチ

「私も含めて、選手たちもとても緊張していたと思います。普段グラウンドでサッカーの練習をしている選手たちが体育館でフットサルに取り組み、よく全国大会まで駒を進めてくれました。予選リーグ最終戦で首位の奈良ろう学校と引き分け、2勝1分けながら得失点差「2点」で1位になれず、選手達は凄く悔しい思いをしたと思います。予選のショックを引きずり、順位決定リーグでは、気持ちの切り替えを出来ないまま2連敗で大会を終える結果となりました。上位チームとはボールを止める、蹴る、運ぶという基本技術はもちろん、ボールがないときの動き出し方や守り方など基本的な部分の差が出ました。練習の中で如何に理解を深めて自分たちで考えて

動けるかが重要だと感じました。全国大会まで体育館を使う他部と交渉して練習場所を確保しましたが、狭いエリアでミニゲームしかできませんでしたが、「全員攻撃、全員守備」はサッカーに通ずるものがあり、常に伝え続けました。主催者の日本ライオンズ様には感謝の気持ちでいっぱいです。チームの結束力が一段と高まりましたし、自分たちで考えてゲームを運ぶというコンセプトを理解し、試合中にまったく声が出なかった選手達が試合を通じて声が出るようになり、ベンチからも発信があったことを嬉しく感じました。今後の成長に絶対的な影響があったと確信しています」



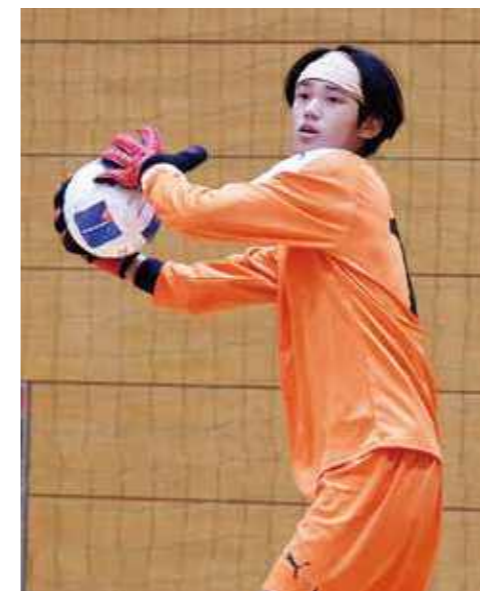
小林晴人主将

「初のフットサル全国大会でみんな緊張していたと思います。体育館という普段とは異なる試合環境の中で慣れるのに時間がかかり、順位決定リーグでは厳しい試合がつづきましたが6位という結果は嬉しかったです。サッカー部として夏休みから11人制と並行してフットサルの練習にも取り組みました。仲間にはフットサルの経験が少ない分「サッカーで使えることをフットサルに応用していこう」と伝えてきました。全国ではフットサルの練

習しかしていないような戦術がしっかりしたチームも多く、戦術的な面で差を感じ、攻守とも難しかったです。サッカーでは国体など全国大会への出場経験はありますが、もちろんフットサルは初めてで、本当に素晴らしい大会で参加できて良かったと思います。チームとしても個人としても、全国大会の緊張感、一発勝負、得失点差など今後に向けてとても良い経験になりました」



得失点差「2」の課題は来季に





大分県立さくらの杜高等支援学校

〒870-0823 大分県大分市東大道2丁目5-23
全校生徒／93人 部員／12人

小澤剛史監督

「初出場だった昨年度以上の成績を目標にチームが団結して戦えたと思います。結果は残念でしたが、全力を尽くし、最後まで戦った生徒を誇りに思います。上位チームは競技の特性をよく理解し、個々がチーム全体のことを考えながら動いていると感じました。ただ、個人の技術力やディフェンス力は通用していたと思います。本大会に向けて生徒たち自身で考えさせ、「6位以上」を目指しました。とにかく練習できる回数が少なかったため、試合形式の練習を行い、かけひきや勝負勘を養うよう練習しました。技術面の指導よりも、チーム

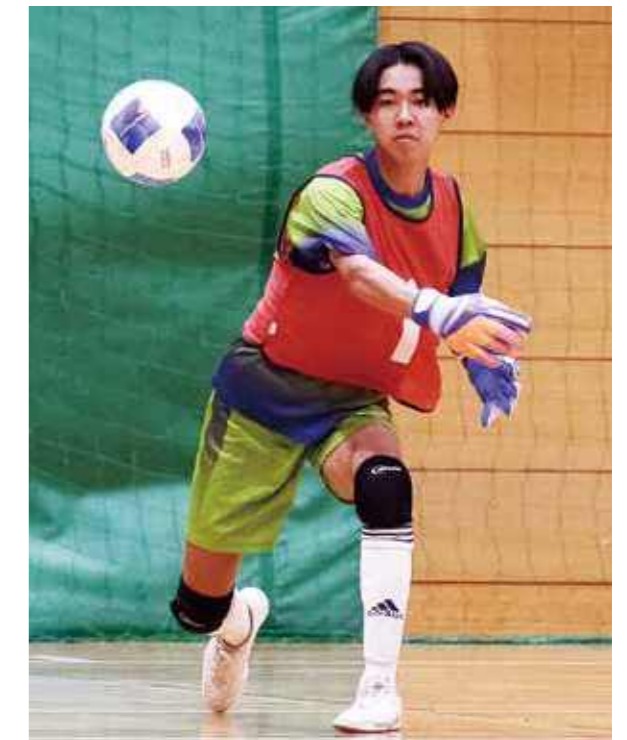
として戦うための考え方や精神面を多く指導してきました。また、リスペクトや感謝をするということを行動で示すとはどのようなことなのかを、具体的に言い続けました。大会当日、観覧席で他校の保護者が横断幕の準備を1人でされていましたが、本校の生徒が「手伝いましょうか」と声をかけ、協力する姿が見られました。生徒が周囲を見てこのような行動ができたことはこの大会全体を通じて「リスペクト」の精神に触れ、活動させていただいた結果だと感じました」



眞田獅苑主将

「全国制覇を目標にして、ゲームを中心に試合に慣れるような練習をして本大会に望みました。前回大会よりも順位は落ちましたが、ゲームの内容はともよかったと思います。昨年度の悔しさがチーム全体にあり、気持ちの面ではどこにも負けていなかったと思います。流れが来るとどこにも負けないチームで、全員が自信をもってプレーできたと思います。自分もディフェンスではたくさんボールをカットできたし、何よりシュートを決めたことがと

てもうれしかったです。主将として自分が一番声を出すように心がけ、1人1人の体調を気にかけてながらチーム全体が楽しく最高のプレーができるように自分なりに工夫をして引っ張りました。後輩にはスポーツを楽しむ気持ちを忘れずに、監督とチームを信じたら必ずいい結果につながると伝えたいです。君たちならできる。君たちは強い。後輩達のもとでキャプテンを務めることができ誇りに思います」



2年連続出場で着実に成長





愛知県立名古屋聾学校

〒464-0021 愛知県名古屋市千種区鹿子殿21-1
全校生徒／93人 部員／18人

筒井舞監督

「第2回大会が4位で地元の大会ということもあり、全国優勝を目指して選手達は頑張ってきましたが、予選リーグで無得点と思うように得点できず、3位になってしまったのが残念で悔しいです。やはり勝つには決める時に決めるという得点力が足りなかったです。予選リーグで2位のあいの里さんと0-0でしたがそこで勝ち切れたら1~3位リーグに進めるチャンスもあったと思います。今大会では東海大会でチームを引っ張ってくれた主将の中野麒和選手と平野航選手が諸事情で出られなかったことも大きかったですが、主力不在の中

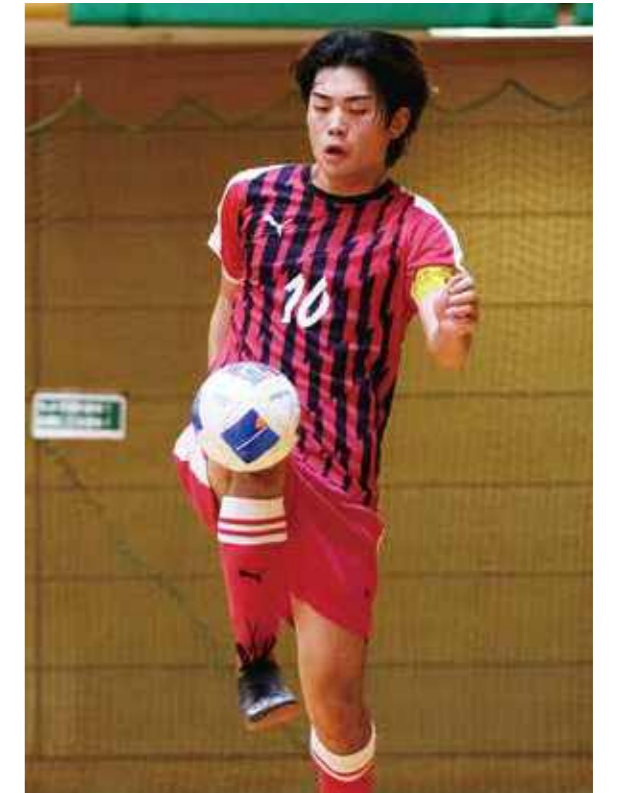
でよく戦ってくれました。2人の分も代わりの中西大翔主将が1年生ながらみんなをまとめて頑張りました。日本ライオンズ様のこの大会があることで、全国大会という目標に向けて日々の練習も一生懸命できていますし、ホテルや食事から準備していただき、このような機会を与えていただけることは、改めて感謝の言葉しかありません。サッカー部は1度、廃部になりましたが復活後は保護者の方々や学校に後押しをいただいていることにも感謝しています」



中西大翔主将

「地元大会でたくさんの方が応援してくれて期待に応えなかったですが、8位と去年よりも順位が下がってしまったので、悔しい気持ちです。東海大会で引っ張ってくれた先輩2人が出場できなかったのも、2人のためにも戦いましたが結果は残念でした。今大会までの主将でしたが、練習や生活からたくさんコミュニケーションを取ってチームをまとめてきたつもりです。仲間達の戦い

ぶりは頑張りましたが満足はしていません。上位とは得点力は違いを感じました。来季に向けもっとコミュニケーションを取って、決定力を上げたいです。大会のレベルはいくつかのチームは技術が高いと思いましたが、それほど差は感じませんでした。もっと練習して来季は優勝できる自信があります。選手宣誓は特に緊張はしませんでした」



主力不在もあきらめず





香川県立香川東部支援学校

〒769-2302 香川県さぬき市長尾西475
全校生徒/146人 部員/22人

宮本覚監督

「前回大会の全敗から、今年は1勝することを目標に大会に臨み、実際に1勝でき9位という成績を選手、スタッフで素直に喜びました。今年度からフットサルを始めた1年生が多く、自分たちのプレーが通用せず焦りと不安を感じたと思いますが、最後まで諦めずにボールを追い続けられたことは今後につながる経験になりました。チーム全員の必死な姿からは、これまで見せたことがない彼らの意地やプライド、たくましさを感じました。国元主将は3年連続の出場ですが、1、2年生の時は地区優勝の根拠のない自信を全国大会で粉々に砕かれ、苦い経験から謙虚さと向上心を身に付けました。今季は後輩への声掛けや練習への積極性が出てゲームで

もリーダーシップを取るなど大きく成長しました。他の選手もいち早くグラウンドに出て、空いた時間に自主的にトレーニングをしていました。もっとうまくなりたいと、地道に練習を重ねる様子が見られたのは今回が初めてです。大会コンセプトに沿った「指導者はベンチからコーチング禁止」という独自ルールは意義のあることだと思います。普段から選手たちが自分たちで考える、局面でいい選択ができる、ということを念頭に置いたトレーニングは、彼らの他律的な部分を改善していく手立てとなります。選手も教師も学ぶことが多い大会を開催して下さる日本ライオンズ様には心から感謝申し上げます」



国元勇磨主将

「9位はとてうれしいです。前は全敗で12位だったので、1勝を目指してチーム全員で試合に挑んだ結果、自分が2得点を決めて1勝することができました。全部の試合で全力を出し切りましたが、毎年、大会のレベルは上がっています。上位チームとは基礎的な技術で大きな差を感じました。主将として全国大会まではアップの時から声をかけ、練習でアドバイスをしました。大会ではみんな緊張していたので、とにかく全力を出して、

けが無く楽しもうと声掛けしました。今大会は団結力のあるチームになったと思います。自分は3年間出場しましたが、できることがちょっとずつ増えて自信ができました。何事にも自信をもってチャレンジしていきたいです。毎年大きな体育館でプレーでき、豪華なホテルに宿泊できたことは、運営の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。おかげで楽しい高校生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました」



地道に歩み喜びと感謝の1勝





長崎県立希望が丘高等特別支援学校

〒859-0401 長崎県諫早市多良見町化屋986-6
全校生徒／87人 部員／16人

江口貴紀監督

「結果は10位でしたが、とても学ぶことの多い、充実した大会になったと考えています。選手たちが、1分け1敗で予選リーグ最終戦を迎えるにあたって、1位、2位リーグへの進出が絶望的な状況となり、普段ではモチベーションの維持が難しいのですが、選手たちの方から声が上が、「ここが大事だぞ」「集中していこう」など、自分たちで雰囲気を作っていました。予選最終戦は0-0の引き分けに終わりましたが、選手達の負けたくないという気持ち、魂のこもったプレーにとっても感動しました。良い雰囲気で行うことができた順位決定リーグでは、全国大会初勝利、そして2連勝という、最高の形で終わることができました。チームを引っ張ってくれた3年生も、とても充実した表情をしていました。この舞台に立

たせて頂いたことは、参加した生徒にとって、一生の財産になると思います。大会を通してコンセプトである「自立」「リスペクト」の姿を選手達は見せてくれました。自分たちで声を掛け合いながらミーティング、ウォーミングアップ、試合などに臨んでいることを、たくましく思いました。3年生が率先して行動をしてくれるので、1、2年生がその姿を真似て、選手同士でいい影響を与え合っていました。ただ、結果には満足はしていません。全国大会ともなると、本当に試合展開も早く、一瞬の油断が失点につながることを痛感しましたが、上位を目指せる可能性を感じています。今回参加した1、2年生を中心に、また出場できるように生徒たちと一緒に切磋琢磨していきたいです」



鳥辺柚希主将

「初出場で緊張はしましたが、2勝できたこともあり、結果には満足しています。みんながしっかり守備もしてくれて、点も決めてくれたので、仲間たちには感謝しています。大会はすごく楽しかったです。この大会を目指して初めてフットサルを経験して、サッカーと同じくらい楽しかったので、満足しています。5試合で5失点しましたが、シュートブロックや相手に向かっていく守備は全国でも通用したと思います。ただ、自分自身は思うように得

点を決められなかったことは全国の厳しさを感じました。チームが成長したと感じるのは、大会に向かう練習の中で、コミュニケーションをとれるようになってきたことです。1人1人が、ポジションによって役割が違うことを分かってきて、意見を出し合うことができました。日本ライオンズ様、このような機会を作っていただき、ありがとうございました。もっともっと、フットサルがやりたくなりました」



負けじ魂でつかんだ2勝





11位 島根県立松江養護学校乃木校舎

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町733-2
全校生徒/194人 部員/21人

藤田勇氣監督

「3年連続出場となり優勝を目指してやってきましたので、11位という結果は残念ですが、大会でも1試合ごとに内容が良くなりましたし、最後の試合で1勝を挙げることができました。3年生は1年から参加している選手が多く、彼らが中心となり、大会コンセプトの「自立」とおりに、基本的なことは3年生に任せています。大会前日も自主的にミーティングを1時間ほど行っていました。団結力が強く、勝ちたいという思いを3年間で一番感じられるチームでした。試合を終えた後も相手チームに自分たちからあいさつしていく様子は素晴らしいと思いましたし人間的に本当に成長してくれました。結果は残念

ですけど、3年連続出場できたことは3年生にとっては宝物になると思います。これで終わりじゃなく今後の学校生活や進路、社会に出ても頑張りたいと思います。当部活は引退というものがないので、来季に向けて1、2年生に力を貸してほしいと思います。3年生が築いてきたチームを下級生には引き継いで頑張してほしいと思いますし、年々すぐレベルが上がってきているので、もっと突き詰めた練習が必要だと感じています。今回の悔しさを選手と共に来季につなげられるよう努力していきたいです」



村松斗也主将

「全国優勝を目標にしてセットプレーやディフェンスを中心にチーム一丸となって日々の練習を頑張ってきました。今大会はとてレベルが上がっていて11位という結果に終わり、自分たちの思うとおりに戦えませんでした。強い相手と戦うことができ、とても良い経験になりました。初戦の前に円陣を組んで「緊張するけど楽しんでやろう」と声かけしましたが、キャプテンとして自分がチームの気持ちが下がった時にもっと声をかけて士気

を上げれば良かったと反省しています。このチームは1人1人の個性が強く、どんな状況でも声を出して盛り上げられる唯一無二の存在でした。第1回から出場してきましたが全国の強いチームと戦えたことは本当に財産となりました。大会がないとできない経験でしたし、他県の学校の皆さんと出会えて良かったです。これからも大会を続けてほしいです。3年間ありがとうございました」



かけがえなき3年連続出場





宮城県立支援学校岩沼高等学園

〒989-2455 宮城県岩沼市北長谷字豊田1-1
全校生徒/109人 部員/8人

久野輝美監督

「正直、1勝どころか1点も取れなかったことは、スタッフ含め選手らもとても悔しい思いをしました。非常に良い経験を積ませてもらいました。来年もぜひ出場を目指し頑張っていきたいです。東北大会は5戦全勝で優勝しましたが、全国レベルの壁はとて高く、厚かったです。悔し泣きしていた選手も多かったですし、これが人生における糧になれば良いと思っています。本校はサッカー部がなく、この大会に出たいという生徒などが集まり、東北大会前にできた特設の部活として発

足しました。夏休みを中心に練習を重ねてきましたが、練習期間は短く、やはり全国大会は甘くなかったです。1、2年生は来年も出たいと言っていたので、何とか学校にも協力してもらい、部として継続していけるよう働きかけたいと思います。初めて日本ライオンズ様の大会に出場して素晴らしい雰囲気でした。消極的な生徒が他チームの方々と積極的に交流しようという姿勢が見られましたし、大会を通して成長が見られ、フットサルを通じて人間性が磨かれていると感じました」



浜塚佑大主将

「初出場でしたが、プレーは緊張しませんでした。自分のプレースタイルである「泥臭いプレー」と「情熱のあるプレー」をチームに浸透させ、チーム一丸となって試合に取り組むことができました。東北大会よりもプレッシャーを感じ、全国の壁はとて高く厚いと感じました。大きな差は感じませんでしたが、チームの連携がうまくいかなかったところがあったと思います。東北大会前にできたチームで、ゼロからのスタートでしたが、主将として1人1人の判断力、プレーの質をよく見て、うまくいか

ない点はその都度確認して、何回も繰り返し練習してまとめてきたつもりです。後輩達には連係プレーを増やして、チーム全体のレベルを向上させて、来季も全国大会へ出場できるように頑張りたいと思います。日本ライオンズ様には、このような素晴らしい大会をこれからも続けてほしいです。チームとしては悔しい思いもしましたが、一生の良い思い出になりました。ありがとうございました」



来季につながるゼロからの挑戦



開会式

2024年11月1日 名鉄グランドホテル



国歌斉唱 高らかに



開会宣言・公益財団法人日本ライオンズ山川洋副理事長



小野寺眞悟大会会長あいさつ



来賓祝辞・ライオンズクラブ国際協会元国際会長・山田貴祐様



来賓祝辞・小林紀彦愛知県特別支援学校長



ビデオメッセージ・大村秀章愛知県知事



閉会宣言を行う池上信日本ライオンズ理事

感謝と期待と闘志胸に秘め

選手宣誓

宣誓。
我々選手一同は、全国特別支援学校フットサル大会に向けて一生懸命練習に取り組み、チームの力を磨いてきました。この大会が開催できることに感謝の気持ちを忘れず、練習の成果を十分に発揮したいです。最後まで全力でプレーし、悔いのない大会にすることを誓います。

愛知県立名古屋聾学校 キャプテン 中西 大翔



優勝旗返還



手話であいさつする名古屋聾学校の岡田昊樹選手



マッチコーディネーションミーティング・組み合わせ抽せん会



マッチコーディネーションミーティング・組み合わせ抽せん会



マッチコーディネーションミーティング・組み合わせ抽せん会・奈良県立ろう学校・中村充輝主将

閉会式

2024年11月2日 名古屋マリオットアソシアホテル



小野寺大会会長から優勝旗を受け取る宇都宮青葉高等学園の増淵翔太主将



左から大山実行委員長、石田真一次期実行委員長、伊賀保夫理事



優勝・栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園



2位のトロフィーを受け取る北海道札幌あいの里高等支援学校の星野颯汰主将



3位・奈良県立ろう学校

友情と歓喜と感動残し閉幕



記念球を贈呈された各学校のキャプテン



兵庫県立高等特別支援学校の皆さん



初出場で健闘した宮城県立支援学校岩沼高等学園の皆さん



3年連続出場の香川県立香川東武支援学校の皆さん



小野寺大会会長、山川大会副会長ほか

大会講評



公益財団法人日本ライオンズ理事

第3回大会実行委員長 **大山 恭範**

「自立」「リスペクト」をコンセプトに日本ライオンズが立ち上げた大会も3回目となり、本大会も素晴らしい大会になったと思っております。特別支援学校の子供たちは大きな大会に参加する機会は数少なく、忘れられぬ思い出となるよう2泊3日で遠足するような気持ちで来ていただくよう心がけました。試合では宇都宮青葉高等学園が2連覇を飾りましたが、みなさんの熱戦を拝見し、ハンディをまったく感じさせないレベルの高さと、笑顔や涙に感動させられました。大会後も選手の皆さまから温かい言葉やメールをいただき、こちらこそ感謝の気持ちで一杯です。

第3回大会実行委員会は令和5年の夏から6人で立ち上げ、その後、全国大会の委員会も発足し15人ほどで1年以上を掛けて準備を進めました。子どもたちが安全に楽しくプレーしてくれること、をモットーに委員会も8つの部署に分け最終的に約50人が運営に携わってくれました。全国各地から大勢の方々が名古屋に集結しますので、移動の手配など細心の注意が必要でしたが、実行委員のメンバーの努力と創意工夫により開閉会式、当日の試合進行と極めてスムーズに行えたことは感謝しかありません。フットサル競技に係わるのが初めての方が大半でしたが、大会終了後は「楽しかった」「良い思い出になった」と選手の一生懸命な姿に触発される思いがあったようです。

今後は出場校が増えて試合時間がタイトになることを想定し、選手の負担を少なくするために試合会場へ簡単に短時間で移動できる手段を考えることが必要でしょう。

最後に、全国各地のパートナーの皆さま、審判を引き受けていただいた愛知県サッカー協会審判委員会の皆さま、大会に係わるすべての皆さまに心より御礼申し上げます。



大会役員、実行委員の皆さん

第3回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会参加校一覧

大会参加校数	大会参加校名	大会参加校数	大会参加校名
北海道地区大会 20校	北海道平取養護学校 北海道星置養護学校ほしみ学園 北海道高等養護学校 北海道札幌高等養護学校 北海道紋別高等養護学校 北海道伊達高等養護学校 北海道白樺高等養護学校 北海道小樽高等養護学校 北海道今金高等養護学校 北海道中札内高等養護学校幕別分校 北海道中札内高等養護学校 北海道札幌あいの里高等支援学校 市立札幌みなみの杜高等支援学校 市立豊明高等支援学校 北海道千歳高等支援学校 北海道釧路鶴野支援学校 北海道函館高等支援学校 北海道新篠津高等養護学校 北海道小平高等養護学校 北海道中標津支援学校	中国地区大会 4校	松江養護学校 乃木校舎 島根県立益田養護学校 広島県立黒瀬特別支援学校 岡山県立瀬戸高等支援学校
東北地区大会 11校	秋田県立ゆり支援学校 秋田県立栗田支援学校 岩手県立盛岡峰南高等支援学校・学校法人カナン学園三愛学舎 宮城県立小松島支援学校 宮城県立支援学校女川高等学園 宮城県立秋保かがやき支援学校 宮城県立光明支援学校 宮城県立支援学校岩沼高等学園 福島県立相馬支援学校 福島県立あぶくま支援学校	四国地区大会 3校	香川県立香川東部支援学校 愛媛県立宇和特別支援学校 愛媛県立今治特別支援学校
東関東地区大会 12校	栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園 栃木県立南那須特別支援学校 栃木県立国分寺特別支援学校 栃木県立那須特別支援学校 千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校 千葉県立特別支援学校流山高等学園 茨城県立水戸高等特別支援学校 茨城県立結城特別支援学校 日立市立日立特別支援学校 茨城県立土浦特別支援学校 茨城県立鹿島特別支援学校	北信越地区大会 8校	富山県立富山高等支援学校 富山県立高岡高等支援学校 石川県立明和特別支援学校 石川県立いしかわ特別支援学校 石川県立小松特別支援学校 新潟県立江南高等特別支援学校 新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校 新潟県立五泉特別支援学校村松分校
西関東地区大会 11校	東京都立南大沢学園 東京都立羽村特別支援学校 東京都立志村学園 東京都立東久留米特別支援学校 東京都立府中けやきの森学園 東京都立八王子南特別支援学校 東京都立永福学園 東京都立青峰学園 横浜市立日野中央高等特別支援学校 山梨県立高等支援学校桃花台学園 山梨県立ふじざくら支援学校	東海地区大会 15校	岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 静岡県立浜松特別支援学校 愛知県立名古屋養護学校 岐阜県立可茂特別支援学校 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 岐阜県立東濃特別支援学校 静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校 岐阜県立恵那特別支援学校 岐阜県立西濃特別支援学校 静岡県立富士特別支援学校富士宮分校 愛知県立春日井特別支援学校 岐阜県立海津特別支援学校 静岡県立富士特別支援学校富士東分校 静岡県立袋井特別支援学校磐田見付分校
西関西地区大会 13校	大阪府立たまたがわ高等支援学校 大阪府立とりかい高等支援学校 大阪府立なにわ高等支援学校 大阪府立すなごわ高等支援学校 大阪府立泉北高等支援学校 大阪府立和泉支援学校 兵庫県立いなみ野特別支援学校 兵庫県立のじざく特別支援学校 兵庫県立芦屋特別支援学校 兵庫県立高等特別支援学校 兵庫県立西神戸高等特別支援学校 兵庫県立東はりま特別支援学校 兵庫県立北はりま特別支援学校	東関西地区大会 10校	京都教育大学附属特別支援学校 京都府立城陽支援学校 京都府立丹波支援学校 京都府立中丹支援学校 京都府立八幡支援学校 京都府立舞鶴支援学校 京都府立井手やまぶき支援学校 京都府立東山支援学校 奈良県立ろう学校 奈良県立高等養護学校
		北九州地区大会 5校	福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」(代表校) 長崎県立希望が丘高等特別支援学校 長崎県立島原特別支援学校 長崎県立佐世保特別支援学校 長崎県立虹の原特別支援学校
		南九州地区大会 9校	熊本県立熊本はばたき高等支援学校(代表校) 大分県立さくらの杜高等支援学校 大分県立大分支援学校 宮崎県立みなみのかげ支援学校(代表校) 宮崎県立向日ひまわり支援学校 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校(代表校) 鹿児島県立牧之原特別支援学校 沖縄県立中部農林高等支援学校 沖縄県立やえせ高等支援学校

集計

複合	開催地区	参加校数		
		2022第1回大会	2023第2回大会	2024第3回大会
331	北海道	15	19	20
332	東北	3	7	11
333	東関東	7	10	12
330	西関東	7	8	11
334	北信越	4	7	8
	東海	6	11	15
335	東関西	13	22	10
	西関東			13
336	中国	6	9	4
	四国	3	4	3
337	北九州	6	14	5
	南九州			10
	合計	70	111	122

北海道地区

2024年7月27日 道立野幌総合運動公園総合体育館

東北地区

2024年9月7日 宮城県仙台市・聖和短期大学

1位リーグ

	A 1位 みなみの社	B 1位 中札内	C 1位 あいの里	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
A 1位 みなみの社		△	△	0	2	0	2	0	2
B 1位 中札内	△		×	0	1	1	1	-3	3
C 1位 あいの里	△	○		1	1	0	4	3	1

4位リーグ

	A 4位 今金	B 4位 千歳	C 4位 函館	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
A 4位 今金		○	○	2	0	0	6	2	1
B 4位 千歳	×		×	0	0	2	0	-3	3
C 4位 函館	×	○		1	0	1	3	1	2

2位リーグ

	A 2位 高等学院	B 2位 白樺	C 2位 豊明	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
A 2位 高等学院		△	×	0	1	1	1	-3	3
B 2位 白樺	△		○	1	1	0	4	2	1
C 2位 豊明	○	×		1	0	1	3	1	2

5位リーグ

	A 5位 紋別	B 5位 鶴野	C 5位 幕別	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
A 5位 紋別		○	○	2	0	0	6	4	1
B 5位 鶴野	×		○	1	0	1	3	-1	2
C 5位 幕別	×	×		0	0	2	0	-3	3

3位リーグ

	A 3位 小樽	B 3位 新篠津	C 3位 札幌	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
A 3位 小樽		×	○	1	0	1	3	-1	2
B 3位 新篠津	○		○	2	0	0	6	3	1
C 3位 札幌	×	×		0	0	2	0	-2	3

6位リーグ

	A 6位 伊達	B 6位 小平	C 6位 中標津	勝数	引分数	敗数	勝ち点	得失点差	順位
A 6位 伊達		△	○	1	1	0	4	8	1
B 6位 小平	△		○	1	1	0	4	3	2
C 6位 中標津	×	×		0	0	2	0	-11	3



第3回全国特別支援学校フットサル大会東北大会結果

《リーグ戦》

【Aグループ】	(A1) 秋保かがやき支援学校	(A2) 女川高等学園	(A3) あぶくま支援学校	(A4) 栗田支援学校	(A5) 光明支援学校	勝点	得点	失点	差	順位
(A1) 秋保かがやき支援学校		△ 1-1	○ 3-1	△ 1-1	○ 2-1	8	7	4	3	2
(A2) 女川高等学園	△ 1-1		△ 2-2	● 2-3	○ 2-1	5	7	7	0	3
(A3) あぶくま支援学校	● 1-3	△ 2-2		● 2-3	● 2-3	1	7	11	-4	5
(A4) 栗田支援学校	△ 1-1	○ 3-2	○ 3-2		○ 4-0	10	11	5	6	1
(A5) 光明支援学校	● 1-2	● 1-2	○ 3-2	● 0-4		3	5	10	-5	4

【Bグループ】	(B1) ゆり支援学校	(B2) 小松島支援学校	(B3) 岩沼高等学園	(B4) 相馬支援学校	(B5) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	勝点	得点	失点	差	順位
(B1) ゆり支援学校		● 0-1	● 2-4	○ 3-1	○ 2-1	6	7	7	0	3
(B2) 小松島支援学校	○ 1-0		● 1-2	○ 3-1	△ 1-1	7	6	4	2	2
(B3) 岩沼高等学園	○ 4-2	○ 2-1		○ 4-1	○ 7-1	12	17	5	12	1
(B4) 相馬支援学校	● 1-3	● 1-3	● 1-4		● 1-3	0	4	13	-9	5
(B5) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	● 1-2	△ 1-1	● 1-7	○ 3-1		4	6	11	-5	4

試合時間	Aコート				Bコート			
	開会式	10:00						
第1試合	10:30	(A1) 秋保かがやき支援学校	1 1	(A2) 女川高等学園	(B1) ゆり支援学校	0 1	(B2) 小松島支援学校	
第2試合	10:50	(A3) あぶくま支援学校	2 3	(A4) 栗田支援学校	(B3) 岩沼高等学園	4 1	(B4) 相馬支援学校	
第3試合	11:10	(A5) 光明支援学校	1 2	(A1) 秋保かがやき支援学校	(B5) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	1 2	(B1) ゆり支援学校	
第4試合	11:30	(A2) 女川高等学園	2 2	(A3) あぶくま支援学校	(B2) 小松島支援学校	1 2	(B3) 岩沼高等学園	
第5試合	11:50	(A4) 栗田支援学校	4 0	(A5) 光明支援学校	(B4) 相馬支援学校	1 3	(B5) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	
第6試合	12:10	(A1) 秋保かがやき支援学校	3 1	(A3) あぶくま支援学校	(B1) ゆり支援学校	2 4	(B3) 岩沼高等学園	
第7試合	13:00	(A2) 女川高等学園	2 3	(A4) 栗田支援学校	(B2) 小松島支援学校	3 1	(B4) 相馬支援学校	
第8試合	13:20	(A3) あぶくま支援学校	2 3	(A5) 光明支援学校	(B3) 岩沼高等学園	7 1	(B5) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	
第9試合	13:40	(A1) 秋保かがやき支援学校	1 1	(A4) 栗田支援学校	(B1) ゆり支援学校	3 1	(B4) 相馬支援学校	
第10試合	14:00	(A2) 女川高等学園	2 1	(A5) 光明支援学校	(B2) 小松島支援学校	1 1	(B5) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	

《順位決定戦》

9・7位決定戦	14:30	(A5位) あぶくま支援学校	3 0	(B5位) 相馬支援学校	(A4位) 光明支援学校	2 0	(B4位) 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎
5・3位決定戦	14:50	(A3位) 女川高等学園	1 0	(A3位) ゆり支援学校	(A2位) 秋保かがやき支援学校	2 0	(B2位) 小松島支援学校
決勝	15:30	(A1位) 栗田支援学校	1 3	(B1位) 岩沼高等学園			
閉会式	16:00						

優勝
準優勝
第3位

岩沼高等学園
栗田支援学校
秋保かがやき支援学校

※優勝チームは、2024年11月2日に愛知県で行われる全国大会へ出場



東・西関東地区

2024年8月29日 東京都北区滝野川体育館

第3回全国特別支援学校フットサル大会 関東予選

西関東ブロック 永福 羽村 南大沢 桃花台

東関東ブロック 市川大野 宇都宮青葉 水戸高等 結城

4チーム総当たりとする。(勝ち点：勝利3、引き分け1、負け0)
※勝ち点が同一の場合、
①直接対決結果②得失点差③得点数④抽選の優先順位で決定

→4チーム中、1チームが全国大会出場

Aコート 10-3-10分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	1	10:00-10:30	永福	羽村	
	2	10:40-11:10	永福	南大沢	
	3	11:20-11:50	永福	桃花台	

西関東	永福	羽村	南大沢	桃花台	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差	順位
1	永福	3-1	2-0	5-1	3	0	0	9	10	2	8	1
2	羽村	1-3	1-3	4-0	1	0	2	3	6	6	0	3
3	南大沢	0-2	3-1	3-1	2	0	1	6	6	4	2	2
4	桃花台	1-5	0-4	1-3	0	0	3	0	2	12	-10	4

Bコート 10-3-10分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	1	10:00-10:30	南大沢	桃花台	
	2	10:40-11:10	羽村	桃花台	
	3	11:20-11:50	羽村	南大沢	

Aコート 10-3-10分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	1	13:30-14:00	市川大野	宇都宮青葉	
	2	14:10-14:40	市川大野	水戸高等	
	3	14:50-15:20	市川大野	結城	

東関東	市川大野	宇都宮青葉	水戸高等	結城	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差	順位
1	市川大野	1-4	4-0	5-2	2	0	1	6	10	6	4	2
2	宇都宮青葉	4-1	11-1	8-0	3	0	0	9	23	2	21	1
3	水戸高等	0-4	1-11	2-1	1	0	2	3	3	16	-13	3
4	結城	2-5	0-8	1-2	0	0	3	0	3	15	-12	4

Bコート 10-3-10分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	1	13:30-14:00	水戸高等	結城	
	2	14:10-14:40	宇都宮青葉	結城	
	3	14:50-15:20	宇都宮青葉	水戸高等	

西関東大会：東京都立永福学園
東関東大会：栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園
以上2校が全国大会出場権獲得



北信越地区

2024年9月8日 石川県かほく市アクロス高松

第3回全国特別支援学校フットサル大会北信越大会 結果

全国大会予選の部

	江南	富山A	小松	明和	いしかわ	勝	分	敗	勝点	得失点差	順位
新潟県立 江南高等特別支援学校	×	0-5	3-0	2-1	5-1	3	0	1	9	+3	2
富山県立 富山高等支援学校 A	○	×	13-0	6-0	10-0	4	0	0	12	+34	1
石川県立 小松特別支援学校	×	0-3	×	×	△	0	1	3	1	-17	5
石川県立 明和特別支援学校	×	×	○	×	○	2	0	2	6	-5	3
石川県立 いしかわ特別支援学校	×	×	△	×	×	0	1	3	1	-15	4

優勝 富山県立富山高等支援学校 A
準優勝 新潟県立江南高等特別支援学校
3位 石川県立明和特別支援学校

交流戦の部

	新潟分校	富山B	高岡	アグラード	勝	分	敗	勝点	得失点差	順位
新潟分校選抜	×	0-1	0-1	0-5	0	0	3	0	-7	4
富山県立 富山高等支援学校 B	○	×	×	×	1	0	2	3	-6	3
富山県立 高岡高等支援学校	○	○	×	×	2	0	1	6	-1	2
FC.TONアグラード	○	○	○	×	3	0	0	9	14	1

※新潟分校選抜は、新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校と新潟県立五泉特別支援学校村松分校の合同チーム



東海地区

2024年7月30日 愛知県・いちのみや中央プラザ体育館

第3回 全国特別支援学校フットサル大会 東海地区大会 試合結果

全国大会挑戦大会の部

Aブロック	春日井	袋井	可茂	勝	分	負	勝点	得失	順位
春日井	△	2-2	0-2	0	1	1	1	-2	2
袋井	△	△	●	0	1	1	1	-3	3
可茂	○	○	△	2	0	0	6	+5	1

決勝トーナメント
●可茂 0-1 ○名古屋
○伊賀つばさ 2-0 ●藤枝

Bブロック	名古屋	東濃	富士宮	勝	分	負	勝点	得失	順位
名古屋	○	5-0	2-0	2	0	0	6	+7	1
東濃	●	○	△	0	1	0	1	-5	3
富士宮	●	●	△	0	1	1	1	-2	2

決勝戦
○名古屋 7-2 ●伊賀つばさ

3位決定戦
○可茂 1-0 ●藤枝

Cブロック	つばさ	恵那	本巣	富士東	勝	分	負	勝点	得失	順位
伊賀つばさ	○	2-1	2-1	2-1	3	0	0	9	+3	1
恵那	●	○	△	○	1	1	1	4	+1	3
本巣	●	●	△	○	1	1	0	4	+3	2
富士東	●	●	●	○	0	0	3	0	-7	4

《最終順位》

優勝
愛知県立
名古屋学校

準優勝
三重県立
特別支援学校
伊賀つばさ学園

第3位
岐阜県立
可茂特別支援学校

Dブロック	浜松	藤枝	岐阜清流	西濃	勝	分	負	勝点	得失	順位
浜松	○	●	●	●	0	0	3	0	-9	4
藤枝	○	○	△	○	2	1	0	7	+4	1
岐阜清流	○	○	○	○	1	1	1	4	+3	3
西濃	○	○	○	○	2	0	1	6	+2	2



東関西・西関西地区

2024年7月29日 大阪府堺市立大浜体育館

第3回全国特別支援学校フットサル大会 東関西・西関西地区大会

○予選リーグ(ランニングタイム 第1ピリオド10分、第2ピリオド10分、ハーフタイム5分)
○決勝トーナメント(ランニングタイム 第1ピリオド15分、第2ピリオド15分、ハーフタイム10分)

西関西 Aブロック	なにわ	いなみ野	西神戸	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
なにわ	△	0-2	4-2	2	3	1	1	0	4	4	±0
いなみ野	○	○	2-2	1	4	1	0	1	4	2	+2
西神戸	○	○	○	3	1	0	1	1	4	6	-2

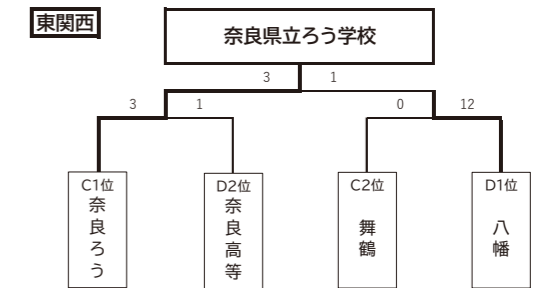
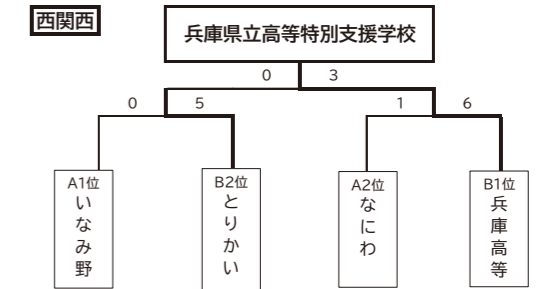
西関西 Bブロック	兵庫高等	とりかい	東はりま	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
兵庫高等	○	1-0	5-0	1	6	2	0	0	6	0	+6
とりかい	○	○	9-0	2	3	1	1	0	9	1	+8
東はりま	○	○	○	3	0	0	2	0	0	14	-14

東関西 Cブロック	奈良ろう	城陽	舞鶴	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
奈良ろう	○	2-0	4-0	1	6	2	0	0	6	0	+6
城陽	○	○	1-2	3	0	0	2	0	1	4	-3
舞鶴	○	○	○	2	3	1	1	0	2	5	-3

東関西 Dブロック	八幡	奈良高等	丹波	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
八幡	○	3-1	3-0	1	6	2	0	0	6	1	+5
奈良高等	○	○	1-0	2	3	1	1	0	2	3	-1
丹波	○	○	○	3	0	0	2	0	0	4	-4

① 勝点は、勝3点、負け0点、引分1点とする。
② 順位はグループ内の勝点合計の多いチームを上位とする。
③ 勝点合計が同じ場合は、以下の順序により決定する。
1 当該チーム同士の対戦成績 2 総得失点差 3 総得点数 4 抽選

決勝トーナメント



交流戦 西神戸 10 - 0 東はりま
交流戦 城陽 1 - 2 丹波



中国・四国地区

2024年8月25日 岡山県・環太平洋大学第4体育館

第3回全国特別支援学校フットサル大会中国地区・四国地区大会 組み合わせ

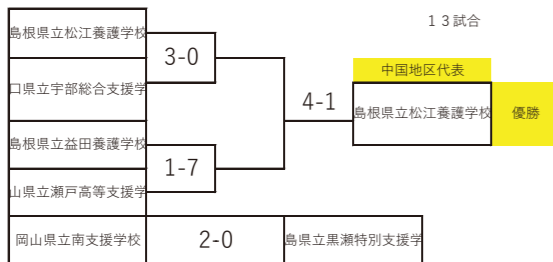
中国地区大会

Aブロック			
	島根県立松江養護学校	島根県立益田養護学校	岡山県立南支援学校
島根県立松江養護学校	-	0-4	0-1
島根県立益田養護学校	4-0	-	1-4
岡山県立南支援学校	1-0	4-1	-
勝ち点	6	3	0

Bブロック			
	山口県立宇部総合支援学校	広島県立黒瀬特別支援学校	岡山県立瀬戸高等支援学校
山口県立宇部総合支援学校	-	1-3	2-0
広島県立黒瀬特別支援学校	3-1	-	6-2
岡山県立瀬戸高等支援学校	0-2	2-6	-
勝ち点	3	0	6

四国地区大会

	1回戦	2回戦	3回戦	
香川県立香川東部支援学校	2	4	1	四国地代表
愛媛県立宇和特別支援学校	0	1	0	



Aコート				Bコート				
1回戦	島根県立松江養護学校	VS	島根県立益田養護学校	10:45-11:05	1回戦	山口県立宇部総合支援学校	VS	広島県立黒瀬特別支援学校
2回戦	香川県立香川東部支援学校	VS	愛媛県立宇和特別支援学校	11:20-11:40	2回戦	山口県立宇部総合支援学校	VS	岡山県立瀬戸高等支援学校
3回戦	島根県立松江養護学校	VS	岡山県立南支援学校	11:55-12:15	3回戦	広島県立黒瀬特別支援学校	VS	岡山県立瀬戸高等支援学校
4回戦	島根県立益田養護学校	VS	岡山県立南支援学校	13:30-13:50	4回戦	香川県立香川東部支援学校	VS	愛媛県立宇和特別支援学校
5回戦	島根県立松江養護学校「A1」	VS	山口県立宇部総合支援学校「B2」	14:10-14:30	5回戦	島根県立益田養護学校「A2」	VS	岡山県立瀬戸高等支援学校「B1」
6回戦	岡山県立南支援学校「A3」	VS	広島県立黒瀬特別支援学校「B3」	14:45-15:05	6回戦	香川県立香川東部支援学校	VS	愛媛県立宇和特別支援学校
7回戦	決勝 島根県立松江養護学校	VS	決勝 岡山県立瀬戸高等支援学校	15:20-15:40	7回戦		VS	



北九州・南九州地区

2024年8月25日 大分県速水フットサルコート

第3回全国特別支援学校フットサル大会 九州大会(会場：速見フットサル場)

北九州地区 (福岡県、長崎県、佐賀県 (不参加))

南九州地区 (熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

kick off	MNs	Aピッチ (道路側)		Bピッチ (クラブハウス側)		
9:40	南九州地区 Aブロック①	さくらの杜 高等支援学校	3-1	鹿児島高等 特別支援学校	南九州地区 Bブロック②	大分支援学校 5-3 みなみのかげ支援学校
10:00		北九州地区チームアップ (10:20まで)		北九州地区チームアップ (10:20まで)		
10:40	南九州地区 Aブロック③	さくらの杜 高等支援学校	5-0	はばたき高等 支援学校	南九州地区 Bブロック④	大分支援学校 0-3 中部農林高等支援学校
11:10	北九州地区 決勝戦	福岡高等学園	1-4	希望が丘 高等特別支援学校		
11:40	南九州地区 Aブロック⑤	鹿児島高等 特別支援学校	4-1	はばたき高等 支援学校	南九州地区 Bブロック⑥	みなみのかげ支援学校 0-1 1 中部農林高等支援学校
12:00						
12:40	南九州地区 代表決定戦	さくらの杜 高等支援学校	3-0	中部農林高等支援学校	南九州 3位決定戦	鹿児島高等 特別支援学校 8-0 大分支援学校
13:10		閉会式				



第4回全国特別支援学校 フットサル大会の開催の告知

- 1 主 催 公益財団法人日本ライオンズ
- 2 後援予定 スポーツ庁 東京都 全国特別支援学校長会
- 3 各地区大会の日程
2025年(令和7年)6月から9月までの間で、全国12地区において地区大会を開催する。
- 4 全国大会の日程
 - (1)開催期日 2025令和7年11月1日(土)
 - (2)会 場 競技会場:東洋大学赤羽台キャンパス体育館
 - (3)日 程 10月31日(金) 午後4時 開会式
11月1日(土) 午前9時30分 全国大会
11月1日(土) 午後6時30分 表彰式・閉会式



大山恭範実行委員長からフラッグを受け取る次回東京大会の石田真一実行委員長

第4回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会 開催期日及び会場、連絡先一覧 (2025.1.31現在)

区 分	開催期日	開催会場	開催主管組織及び連絡先等	開催パートナー組織及び連絡先等
北海道 331 地区	7月26日(土)	道立野幌総合運動公園 総合体育館	理事 片山雅裕 090-8631-3004 masahiro@katayama-constr.co.jp	公益財団法人明日佳 鈴木重男 090-7519-9503 suzuki@kyoshinomichi.jp
東北 332 地区	9月上旬	聖和短期大学体育館 (予定)	理事 渡邊俊弥 080-6864-7123 watanabe.hohusei@s5.dion.ne.jp	一般社団法人東北サッカー協会 天本清隆 090-8259-9223 r-tohoku@jfa.or.jp 東北福祉大学 大西孝志 080-4895-1066 t-onishi@tfu-mail.tfu.ac.jp
東関東 333 地区 西関東 330 地区	8月下旬	東京都北区滝野川 体育館	副理事長 山川 洋 090-1695-7856 h-yamakawa@sanyorealty.co.jp 理事 伊賀保夫 080-1105-5455 safari@capsule.co.jp	関東知的障がい者サッカー連盟 木村純一 080-5064-1648 vamora6@yahoo.co.jp
北信越 334 地区	9月7日(日)	ジョイアクロス「アクロス館」(アクロス高松)	理事 大山恭範 090-3308-7888 bu-ton29@pearl.ocn.ne.jp	一般社団法人北信越サッカー協会 谷内浩仁 090-2123-6997 r-hokusinetu@jfa.or.jp
東海 334 地区	7月31日(木)	名古屋市中村区 中村スポーツセンター	理事 大山恭範 090-3308-7888 bu-ton29@pearl.ocn.ne.jp	東海地区大会実行委員会 野村政司 090-3158-8138 n09031588138@gmail.com 高橋敬 takashi@happy-jyusetu.com
東関西 西関西 335 地区	7月下旬～ 8月上旬	大浜だいしんアリーナ (堺市立大浜体育館)	理事 廣田晃一 090-8754-5865 k-hirota@wakoseisakusyo.co.jp	関西知的障がい者サッカー連盟 芥川豊和 090-8532-1088 T-AkutagawaT@medu.pref.osaka.jp
中国 四国 336 地区	8月24日(日)	IPU・環太平洋大学 第4体育館	理事 池原 堅 090-7894-5594 office-ikehara@csk-net.co.jp	環太平洋大学サッカー部 桂 秀樹 080-2418-9071 h.katsura@ipu-japan.ac.jp
北九州 南九州 337 地区	8月24日(日)	速水フットサルコート A/B	理事 池上 信 090-3798-0860 m-ikegami@kidmold.co.jp	一般社団法人沖縄県障がい者 サッカー連盟 金城 充 090- 8291-0556 mitsurugekidan@yahoo.co.jp 大分県立大分支援学校 清末直樹 090-9496-2667 kiyosue-naoki@oen.ed.jp

第3回全国特別支援学校フットサル大会を終えて



大会副会長 山川 洋

公益財団法人日本ライオンズ副理事長

第3回全国特別支援学校フットサル大会が12地区大会122校の参加を経て、各地区優勝校12校が名古屋市中村スポーツセンターで全国大会が円滑に開催され、盛会裏に終えることができましたこと、愛知県を中心としたライオンズクラブの皆様方で組織された実行委員会のお陰と心よりの御礼を申し上げます。

また、本記念誌にも見られますよう、実行委員会の皆様方のライオンズムが發露された特別支援学校の生徒への繊細でホスピタリティあふれる運営は、大会前日の開会式から大会本戦、その後の閉会式、その後のホテルの送り出しまで温かみあふれる大会となりました。

さらに、本大会は、私たちが大会開催の理念としている「自立とリスペクト」を学ぶ場として、特別支援学校の生徒の皆さんが、フットサルを通して成長することができるようにと、全国12地区大会から、ゲームにおいては生徒の力だけで臨むことができるよう、各校に練習には教師の皆様方にご協力を頂いているところです。

本記念誌は、このような意味において、参加した特別支援学校の生徒が真摯にゲームに向き合う姿や、最後まであきらめずに仲間と挑戦し続ける姿を如実に記録しておりますので、全国の特別支援学校関係者の皆様方と、何よりも全国の各ライオンズクラブの皆様方には手に取っていただければ幸いと願っています。

(公財)日本ライオンズは、今後も全国特別支援学校フットサル大会の開催や児童養護施設の小学生への学習支援・寺子屋事業などを行い、困難な状況にある子供達の『夢』『希望』を広げていく活動を続けて参りますので、皆様方のご協力・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

中日新聞記事

公益財団法人日本ライオンズ主催

第3回 全国特別支援学校

フットサル大会

2024年11月2日(土)午前9時30分より/名古屋市中村スポーツセンター

特別支援学校の生徒たちが、フットサルを通じて自立心と協調性を育む。公益財団法人日本ライオンズが主催する「第3回全国特別支援学校フットサル大会」が11月2日、名古屋市中村スポーツセンターで開催される。ライオンズクラブ国際協会334-A地区も全面的にサポート。大会に込められた思いや、ライオンズクラブの社会貢献活動について、公益財団法人日本ライオンズの小野寺眞悟理事長と334-A地区の柴田高志氏が話を聞いた。

ごあいさつ



第3回全国特別支援学校フットサル大会全国大会が愛知県において、盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。今年で3回目を迎える本大会では、「自立とRESPECT」を基本コンセプトに、特別支援学校の生徒の主体的判断を尊重し、他人を思いやる心の育成など生徒達の成長に大いに貢献していたたいと考えており、本大会の開催にご尽力いただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様には深く敬意を表します。愛知県では、スポーツ振興に関する中長期的なビジョンと総合的な施策を示す新たな計画として、『愛知県スポーツ推進計画2023-2027-スポーツをつなぐ愛知の未来-』を2023年3月に策定いたしました。この計画の取組期間においては、2025年7月のIGアワードの開催や2026年のアジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催などの大規模プロジェクトが控えており、このイベントを最大限に活かし、競技力の向上や障害者スポーツの振興はもとより、スポーツを通じて共生社会の実現や地域活性化といった様々な成果を生み出し、日本を盛り上げていきたいと考えております。全国特別支援学校フットサル大会が今後も継続的に開催され、フットサルを通じて共生社会の実現に向けた取組がさらに広がっていくことを期待するとともに、選手の皆様におかれましては、この大会を一つの契機として、全国から参加された選手との交流を深めていただきたいと思っております。最後になりましたが、本大会に参加されます選手並びに関係者の皆様のお健勝と御多幸を心から祈念いたします。お祝いの言葉をさせていただきます。

愛知県知事 大村秀章



ライオンズクラブ国際協会 334-A地区代表者 柴田高志氏

「そのおかげで、5人で構成されたチームが、約10万人のメンバーで構成されたライオンズクラブのメンバーと対戦する機会が生まれました。私たちが目指しているのは、特別支援学校の生徒が、自立心と協調性を育むこと、そして、社会貢献活動を通じて、社会に貢献することです。また、この大会を通じて、選手たちと関係者の皆様との交流を深めていただきたいと思っております。最後になりましたが、本大会に参加されます選手並びに関係者の皆様のお健勝と御多幸を心から祈念いたします。お祝いの言葉をさせていただきます。」



公益財団法人日本ライオンズ理事長 小野寺眞悟氏

社会貢献に邁進する 二つの奉仕組織の挑戦

特別支援学校の生徒たちが、フットサルを通じて自立心と協調性を育む。公益財団法人日本ライオンズが主催する「第3回全国特別支援学校フットサル大会」が11月2日、名古屋市中村スポーツセンターで開催される。ライオンズクラブ国際協会334-A地区も全面的にサポート。大会に込められた思いや、ライオンズクラブの社会貢献活動について、公益財団法人日本ライオンズの小野寺眞悟理事長と334-A地区の柴田高志氏が話を聞いた。

特別支援学校の生徒 フットサルで未来を拓く

特別支援学校の生徒たちが、フットサルを通じて自立心と協調性を育む。公益財団法人日本ライオンズが主催する「第3回全国特別支援学校フットサル大会」が11月2日、名古屋市中村スポーツセンターで開催される。ライオンズクラブ国際協会334-A地区も全面的にサポート。大会に込められた思いや、ライオンズクラブの社会貢献活動について、公益財団法人日本ライオンズの小野寺眞悟理事長と334-A地区の柴田高志氏が話を聞いた。

第3回全国特別支援学校フットサル大会の開催要項
1 主催 公益財団法人日本ライオンズ
2 後援 スポーツ庁 愛知県 名古屋市 中日新聞社
3 各地区大会の日程
2024年(令和6年)6月~9月までの間で、全国12地区において地区大会を開催
4 全国大会の日程
(1)開催期日 2024年11月2日(土)
(2)会場 名古屋市中村スポーツセンター
(3)日程 2024年11月1日(金) 午後3時00分 開会式・抽選会
2024年11月2日(土) 午前9時30分 全国大会
午後4時00分 表彰式・閉会式

私たちは第3回全国特別支援学校フットサル大会を応援します

Table listing sponsors and supporters, including various companies and organizations such as 医療法人 明日佳, サントリー, 丸善, etc.

公益財団法人 日本ライオンズ 寄付報告書 Ver.01

ご記入日	年	月	日
振込日 (銀行明細の取引年月日)	年	月	日
振込金額	円		
地区/クラブ名	地区	ライオンズクラブ	
寄付者 情報	メンバー： 会員番号		
	一般： ご紹介者名		
	法人・個人 名		
	ご連絡先	電話(携帯)	-
		E-MAIL	@
所属クラブ 連絡先	電話	-	-
	FAX	-	-
	E-mail	@	
寄付情報に関する問い合わせ担当者			
指定寄付	希望しない・希望する (○で囲んでください)		
	ご希望される指定寄付 (以下、○で囲んでください) 寺子屋事業・フットサル事業		
	その他：		
領収書 送付先	送付先宛名：		
	送付先 〒		都道府県
	ご住所：		
	領収書宛名：		
備考			
振込先	銀行名/支店名 三井住友銀行 東京公務部 口座 普通預金 0178781 口座名 公益財団法人日本ライオンズ【ザイ）ニホンライオンズ】		
報告用紙 送付先	公益財団法人日本ライオンズ E-Mail : office@lion-zaidan.or.jp TEL/FAX:03-6262-6108		

発行日 2025年1月31日
 発行者 公益財団法人日本ライオンズ
 監修 小野寺眞悟
 編集 木村健太郎
 編集者 第3回全国特別支援学校フットサル大会編纂委員会
 印刷 中西印刷株式会社

